

まちづくり提言板 参考資料

～みんなでつくる幸福（ウェルビーイング）のまちへ～

この参考資料をご覧いただきありがとうございます。

市では現在、市民の皆様のご提言等をいただきながら、令和9年度から5年間のまちづくりの方向性を示す新たな計画「第4次光市総合計画」の策定に取り組んでいます。

総合計画には、目指すまちの将来像や5年間で取り組むべき政策などを掲載する予定であり、策定後はそれらを市民の皆様と共有し、ともにまちづくりを進めていきたいと考えています。

市民の皆様、この資料をヒントに、ぜひお気軽に私にご提言をお寄せください。いただいたご提言は、総合計画の策定や今後のまちづくりの参考とさせていただきます。

光市長

芳岡 統



Web提言フォーム
からの提言はこちら



[https://www.city.hikari.lg.jp/
cgi-bin/inquiry.php/230](https://www.city.hikari.lg.jp/cgi-bin/inquiry.php/230)

まちづくりを考えるにあたって

○ 第4次光市総合計画の策定を進めています

急激な人口減少や先行きの見えない物価高騰、自然災害の激甚化・頻発化など、本市を取り巻く社会経済情勢はめまぐるしく変化し、多くの課題が山積しています。

一方、目覚ましいAI・デジタル技術の進展や多様化や包摂性の尊重などの新たな時代の潮流は、これからの成熟社会を生きる私たちの生活様式や価値観の変容にもつながりつつあります。

新たな総合計画では、前計画に引き続き概ね20年後の令和27(2045)年を展望した上での、令和9(2027)年度から令和13(2031)年度までの5年間のまちづくりの考え方や方向性を示すとともに、こうした不透明な時代の中でも、さらなる本市発展と市民の皆さんの幸福づくりに向けた道筋を描き、名のごとく光輝くまちを次世代につないでいくための計画として策定します。

皆さんと考えたい3つのテーマを解説します

人口減少と
少子高齢化

産業・経済
賑わい

持続可能な
都市経営

人口減少と 少子高齢化

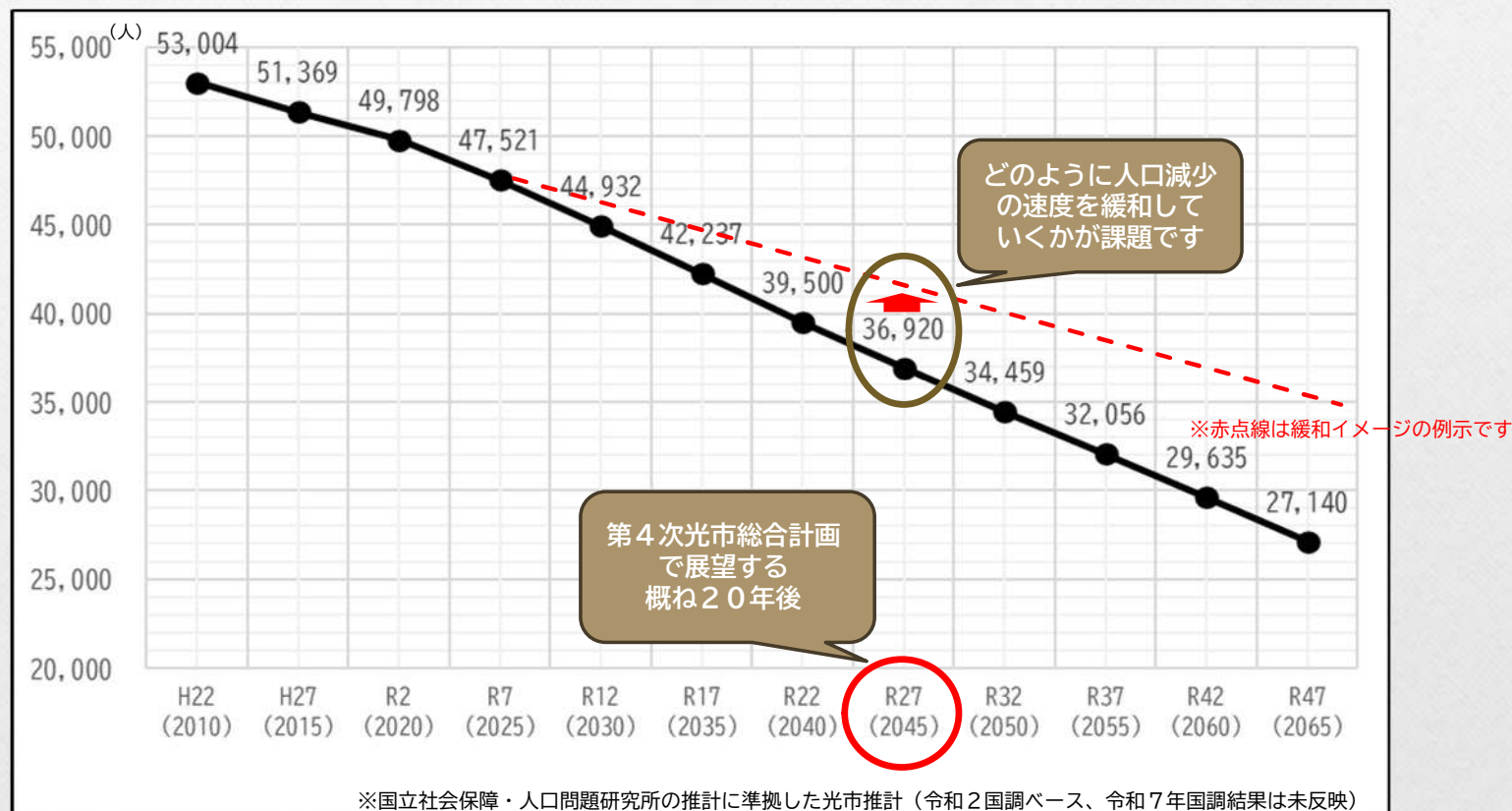
【現状】

著しい少子高齢化の進行と、東京圏への人口一極集中の流れが加速しており、とりわけ地方都市においては、経済活動の縮小や社会保障制度等の持続可能性への懸念、生活関連サービスの縮小、地域活力の低下など、様々な影響を及ぼしています。

5月29日に発表された令和7年国勢調査（速報値）による本市人口は46,329人と、5年前時点の推計値※よりも若干下回っており、厳しい状況となっています。

※第3次光市総合計画における社人研推計準拠における令和7年人口46,635人

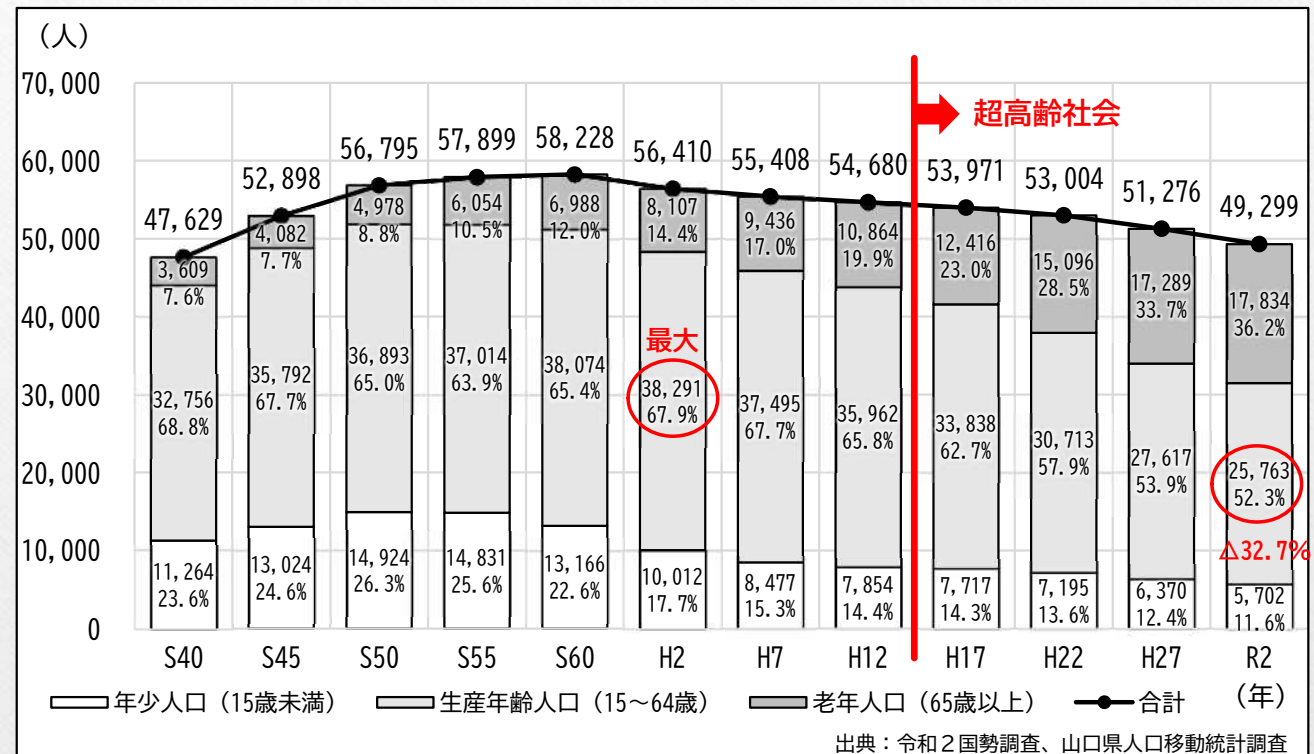
《光市の将来人口推計》



人口減少と 少子高齢化



《年齢3区分別人口の推移》



年齢3区分別人口では、老年人口の増加が続いており、平成17(2005)年以降「超高齢社会※」となる一方、生産年齢人口及び年少人口は、数・割合とも減少が続いています。生産年齢人口は令和2(2020)年が25,763人と、平成2(1990)年のピーク時から約32.7%減少しています。 ※高齢化率21%以上、WHO定義

人口減少と
少子高齢化

人口減少の速度を緩和するために 考えたい3つのポイント



Let's think !



「選ばれるまちづくり」を進める

⇒「住んでみたい、住み続けたい」と思ってもらえるまちになるには。



「本市ならではの」の地方創生に取り組む

⇒まちの個性を磨く観点から「本市ならではの」とは何か。
また、それをどのように発信していくか。



豊かな自然の中で子育てしやすい環境の魅力発信

⇒「おっぱい都市宣言」「自然敬愛都市宣言」のまちとして、豊かな自然に
囲まれて子育てができる環境をPRしていくか。

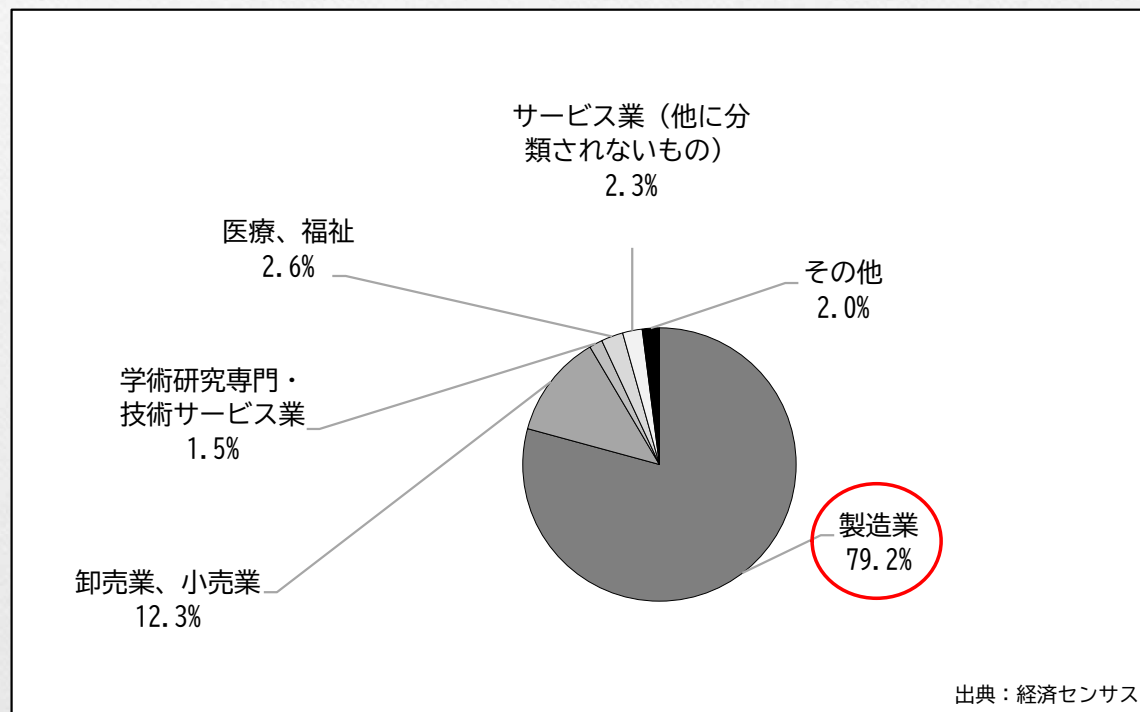
産業・経済 賑わい

【現状】

中東情勢やウクライナ情勢など、世界各地で後を絶たない紛争や一方的な関税の導入といった政治リスクなどにより、エネルギー価格や物価の高騰、石油関連製品の不足など、市民生活や地域経済に大きな影響を及ぼしています。

本市の産業は製造業が大きな割合を占めていますが、こうした情勢に起因する影響に加え、今後、人口減少による更なる働き手の減少や地域経済の縮小、賑わい不足が懸念されています。

《産業構造割合(売上)》

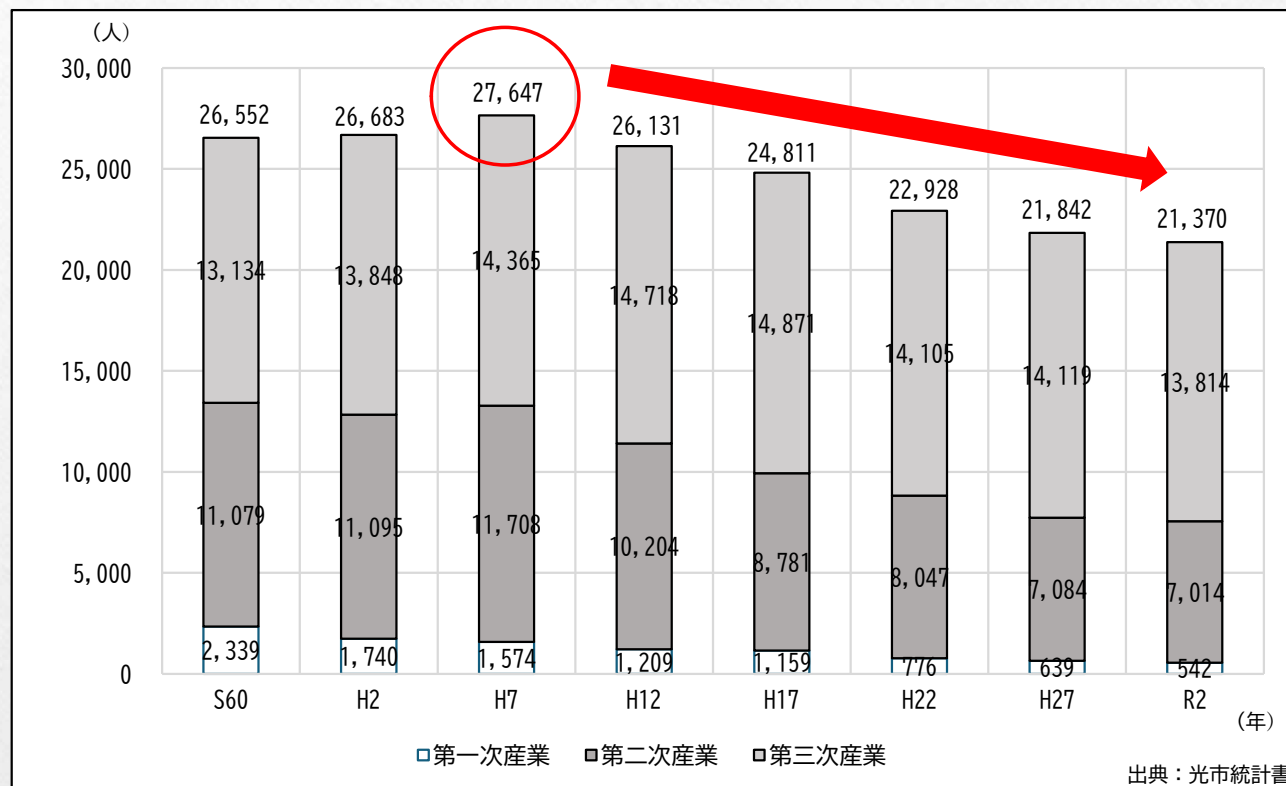


「製造業」が79.2%と圧倒的に多くを占め、続いて「卸売業、小売業」の12.3%、「医療、福祉」の2.6%となっています。

産業・経済 賑わい



《産業分類別の就業者数の推移》



就業者数は、平成7(1995)年をピークに減少傾向が続いており、以降、特に第一次産業、第二次産業は、令和2(2020)年までに、前者が約65.6%減、後者は約40.0%減と、減少幅が大きくなっています。

産業・経済
賑わい

産業活性化・賑わい創出のために 考えたい3つのポイント



Let's think!



時々的情勢に応じた経済対策を実施

⇒不安定な情勢の影響を注視しながら適切な経済対策を実施するためには。



本市産業のさらに発展させる

⇒人口減少に起因する縮小社会の中でも、元気で活力があり続ける持続可能な地域経済を創るために必要なことは何か。



本市固有の魅力を活かした新たな賑わいの創出

⇒自然・歴史・文化・人など本市固有の魅力を活かして、どのように賑わいを生み出していくか。

持続可能な 都市経営

【現状】

人口減少や少子高齢化による税収減少や社会保障費の増大、老朽化するインフラ（公共施設、上下水道、道路交通網、公園等）の修繕費増大などが地方財政に重くのしかかっています。

市では現在、人口減少に歯止めをかけることによる税収確保や稼ぐ力の向上、厳しい歳出抑制、公共施設マネジメント※の推進などに取り組んでいます。

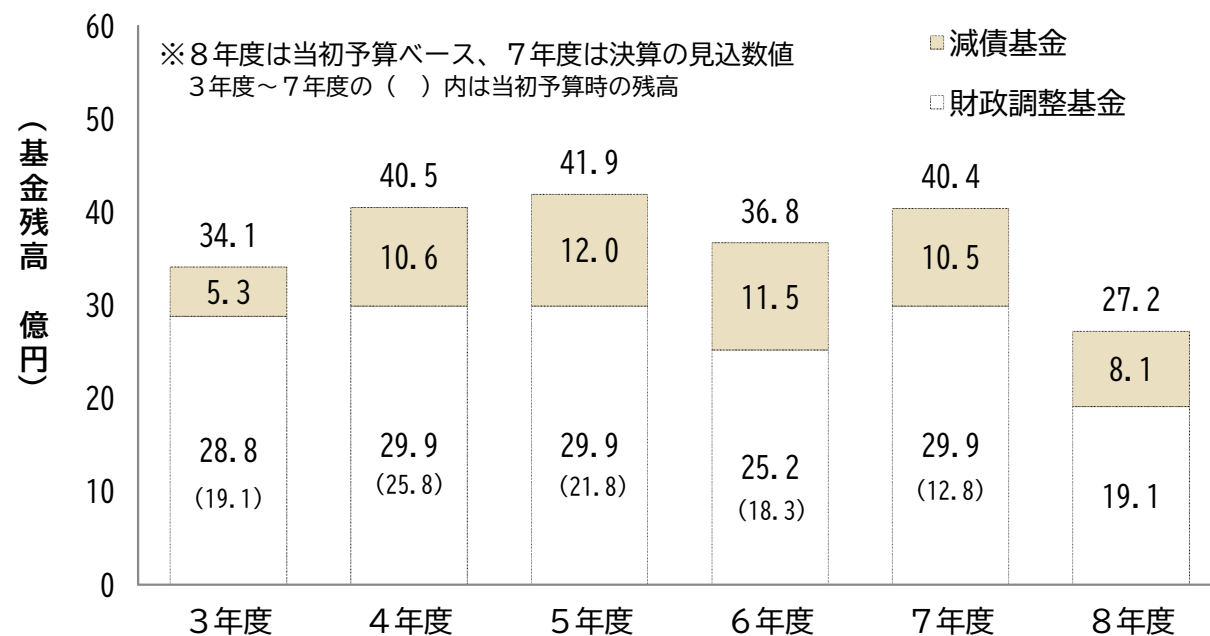
※都市経営の観点から、市が保有する公共施設を全体的かつ計画的に管理し、スリム化する取組

《財政調整基金の推移》

市の貯金のこと

令和8年度当初予算における財政調整基金の年度末残高は19億1,363万円となっており、当初予算時の残高が近年、減少傾向であることが見て取れます。

なお、減債基金は、市債を将来確実に返済するため、計画的にお金を積み立てておくための専用の基金のことです。

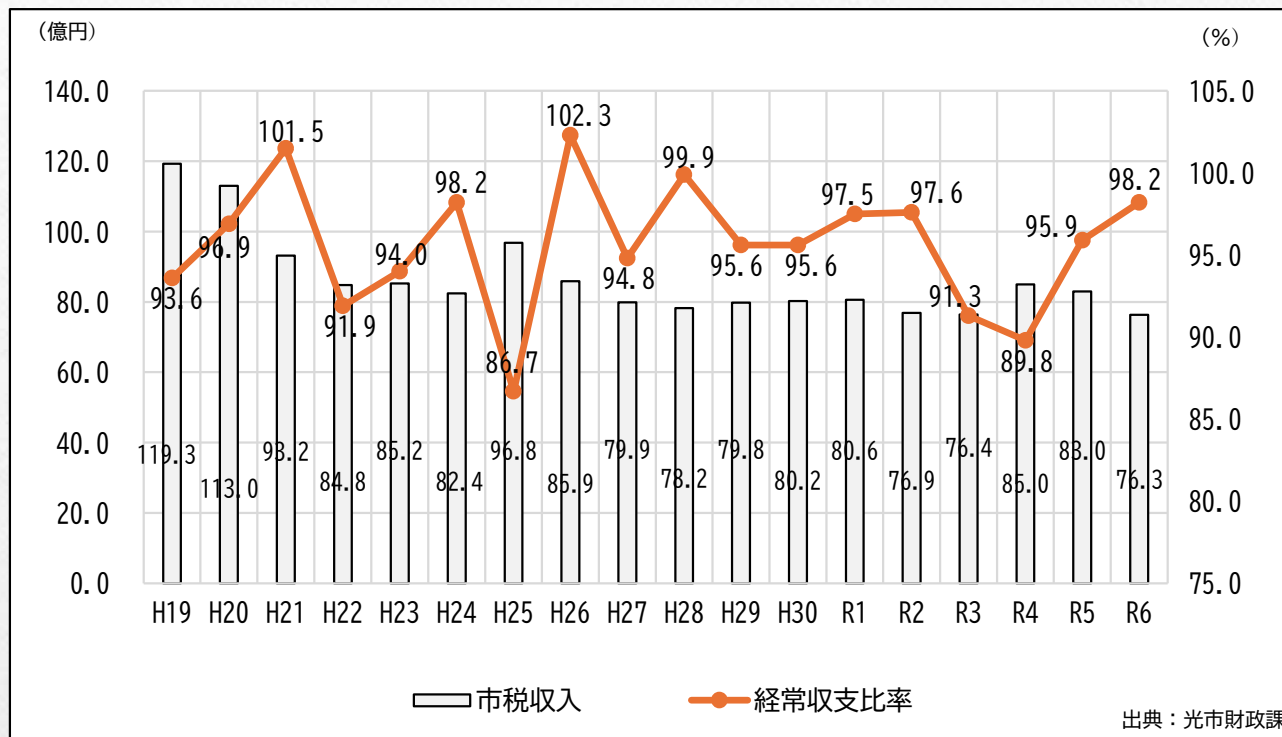


出典：光市財政課

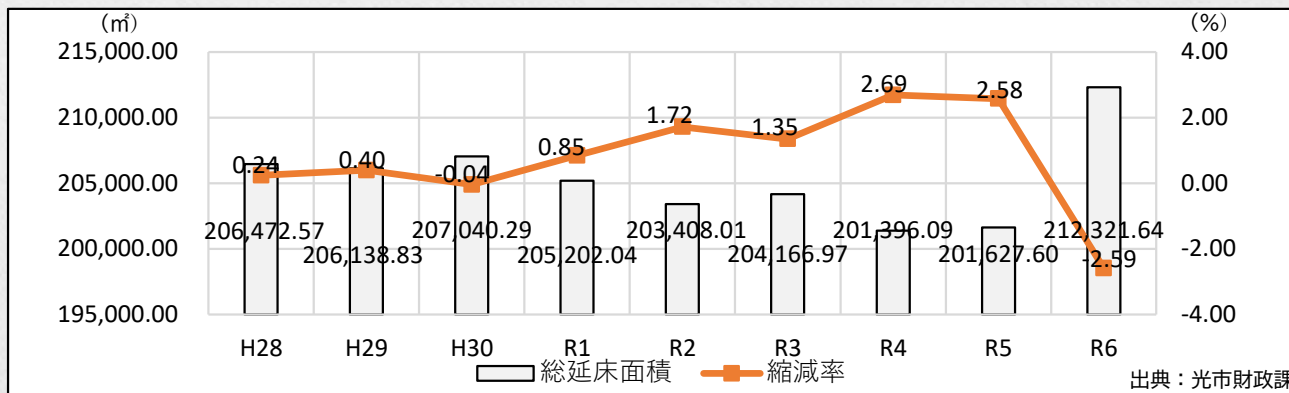
持続可能な都市経営

市税収入は減少傾向が続き、低迷する一方、人件費や扶助費などの経常的な支出が税などの経常的な収入に占める割合を示す経常収支比率は上昇傾向であり、変化する社会情勢や住民ニーズ等への対応力（財政の弾力性）に課題がある状況です。

《市税収入と経常収支比率の推移》



《公共施設等のうち建物の総延床面積と縮減率の推移》



建物の総床面積は減少傾向が続いてきましたが、令和6年に浅江中学校の移転先として旧光丘高校跡地を取得したことにより、大幅に増加しています。

持続可能な
都市経営

将来にわたって光市が続くために 考えたい3つのポイント



Let's think !



「まちの持続可能性」を高めていく

⇒健全な財政を維持していくために必要なことは何か。



“皆で創るまちづくり”をさらに進めていく

⇒市民、事業者、行政が同じ方向を向いて取り組む「皆で創るまちづくり」をさらに進めるには。



人口減少社会に対応する都市の形をつくる

⇒人が減る中でも、魅力的で、かつ利便性が高く安全・安心に暮らせる生活環境をつくるためには。

このほかにも・・・

子育て、教育、福祉、防災、防犯、生活環境、自然環境、公共交通、地域活動、上下水道、消防、病院など、本市のまちづくり全般について、どんなテーマのご提言でもお寄せください。



みんなで考えよう！ ウェルビーイング※（Well-being）のまちづくり

※身体的、精神的、社会的に満たされた状態のこと

第4次光市総合計画では、ウェルビーイングを主軸にした基本理念を位置付け、市が行うすべての政策において、市民の幸福・まち全体の幸福を持続的に高めていくことを意識して取り組んでいきたいと考えています。

本市に暮らす市民の皆さんお一人お一人が、心や体の健康、経済的な安心感、良好な人間関係、豊かな生活環境などにより充実感や満足感を実感できるまちづくり。個々人の幸福が社会全体の幸福につながり、広がり、それが将来にわたって持続していくまちづくり。誰もが「光市が大好きだ」「光市に住んでみたい」「光市に住み続けたい」と思えるまちづくり。

こんなあたたかく健やかに暮らせる「ウェルビーイング」のまちづくりを、私たちと一緒に考えていきませんか。

おわりに

以下のいずれかの方法で、ご提言をお寄せください。

内容は、お住いの地区（任意）、年代（任意）、まちづくりへの提言等（自由記述）です。

Web提言フォーム
からの提言はこちら



[https://www.city.hikari.lg.jp/
cgi-bin/inquiry.php/230](https://www.city.hikari.lg.jp/cgi-bin/inquiry.php/230)

または

市内すべての
コミュニティセンター
に設置する提言板へ
記入用紙を貼り付け

※記入用紙と筆記用具は
提言板の近くにあります



あなたが幸せを感じるのはどんな時ですか？
光市の好きなところはどこですか？
子どもたちにどんな未来を残したいですか？

あなたの声が、光市の幸福な未来をつくります。

ご提言を心からお待ちしています！

本件に関するお問い合わせ

光市 政策企画部 企画調整課 企画係



0833-72-1407



kikaku@city.hikari.lg.jp

※電話による口頭での提言やメールでの提言のご提出はご遠慮ください。